

中古マイクロバス援助事業 報告書

平成19年度

ブータン王国 サムタン職業訓練校



サムタン職業訓練校近郊の風景
(プナカ・ゾン：かつての「冬の都」であるプナカの中心)

平成19年11月
社団法人 日本外交協会

1. 本事業の趣旨

日本において、救急自動車・消防自動車・塵芥収集車といった特殊自動車は、自治体の管理下で所有・利用され、一定期間の後に廃棄される。ただし、処分直前までは予備車として、各消防本部や各自治体にて整備された状態で保管されているのが通常である。日本国内で使用し続けることが困難になった中古車両でも、使用中の保管・整備が徹底されているため状態は良く、このような車両が不足している開発途上国からは、ぜひ使用したいという要請が多い。

社団法人日本外交協会では、各自治体やその消防本部に対して、車両廃棄予定を調査の上、要請条件に合うものを譲渡していただけるよう、協力を依頼している。譲渡を受けた車両は、引き取り、整備・修理、輸送の手配等を日本外交協会の責任において行い、要請のあった途上国に送り届けることになる。その際には、外務省と協議しながら、政府開発援助（ODA）の中の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」等を利用し、その後5年間程度は使用してもらえるような状態で現地へ搬送している。

2. 要請団体

ブータン王国 サムタン職業訓練校

3. 供出団体と譲与車両

マイクロバス 1台

・熱海市役所 トヨタ 車台番号 HDB31-0003429 1992年製

4. 実施の経緯

<要請の背景>

ブータン王国は南アジアに位置し、インドと中国にはさまれた、世界唯一のチベット仏教を国教とする国である。

ブータンでは高等教育機関として職業訓練校がいくつかあり、今回要請のあったサムタン職業訓練校も、その主要なひとつである。同校には国内唯一の自動車整備コースがあるなど、生徒たちの人気も高い。山国の地方都市にあるサムタン職業訓練校では、実践的で効果的な職業訓練を実施するためマイクロバスを使用して学生の毎日の通学及び訓練生の現地実習派遣を行っている。以前に使用していたインド製のバスは22年前に製造されたもので著しく老朽化しており、曲がりくねった細い山道でプロペラシャフトが脱落し、危うく生徒28名が谷底に転落しかけるといふ事故も起きたため、代替車寄贈を受けたいという要請が届いた。

サムタン職業訓練校には、全国各地からの生徒、訓練生、教員・職員が合わせて約200名いる。人材労働省傘下の政府関係機関であり、技術面でも予算面でも十

分な維持管理能力を備えている。

＜輸送と整備について＞

車両は日本の国内で整備した上で輸出している。内部の装備点検、必要な部品の交換、外装塗り直しに加え、車両の前面、及び側面には、日本の援助として送ったことを示すODAマークや、交差して並ぶブータン王国と日本の国旗を貼付した。

6. 要請から実施までの流れ

平成18年	10月	サムタン職業訓練校より、マイクロバスの要請が届く。
平成19年	3月	草の根無償資金の申請書が提出される。
	8月10日	在インド日本国大使館と在インドブータン大使館の間で契約。
	8月14日	サムタン職業訓練校と当協会の間で相互協力の合意文書を交換
	9月10日	車両整備。横浜港より出港。
	9月30日	カルカッタ港にて荷揚げ。
	10月12日	車両が国境に到着。
	10月15日	首都ティンプーにて、日本大使よりサムタン職業訓練校に引渡しセレモニー開催。

－ 別添資料 －

- ・ 【地図】ブータン王国
- ・ ブータン王国 基本情報
- ・ 受領書（写し）英語/日本語
- ・ 写真：救急車現地到着後の活用の様子

【地図】 ブータン王国



ブータン王国 基本情報

1. 面積	約 46,500km ² (九州の約1.1倍)
2. 人口	約 75万2700人 (2004年、ブータン政府資料)
3. 首都	ティンブー (Thimphu)
4. 人種	チベット系 (約60%)、ネパール系 (約20%) 等
5. 言語	ゾンカ語 (公用語) 等
6. 主要産業	農業 (米、麦他)、林業、電力
7. GNI (国民総所得)	677.2 百万米ドル (世銀資料 2004)
8. 一人当たり GNI	760 米ドル (世銀資料 2004)
9. 主要貿易品目	(1) 輸出 電力、鉱物製品、農林製品 (2) 輸入 自動車、自動車部品、コンピュータ、機械製品
10. 主要援助国 (2003年：インドを除く)	(1) 日本 (2) デンマーク (3) スイス



དཔལ་ལྷན་འབྲུག་གཞུང་།
སམས་ཐང་བཅོལ་གསོལ་བདར་སྤྱོད་ཁང་། དབང་འདུས་ལོ་བྱང་།
Royal Government of Bhutan
SAMTHANG VOCATIONAL TRAINING INSTITUTE
WANGDUEPHODRANG

SVTI/ADM-08/2007-07/ 336

29/11/2007

To,
His Excellency the Ambassador
Ambassador of Japan
New Delhi, India

Sub: Acknowledgment

This is to thank Your Excellency for the grant of USD 17,636.00 (Seventeen thousand six hundred six) only for the Micro bus and its transportation to Bhutan. The micro bus is now a great asset to this institute for the utility and transportation of trainees in various training activities. We assure you that the bus will be taken great care and utilize meaningfully for the day to day activity of this institute.

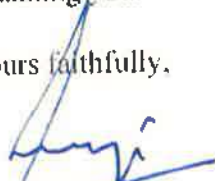
We would like to thank the Society for Promotion of Japanese Diplomacy for the excellent donation and transportation of the bus to Bhutan without any delay and hindrance. We assure that the contract agreement signed between SPJD and SVTI will be complied without compromised, whatsoever.

Finally, we would like to extend our hearty gratitude to the people of ATAMI city for the kind donation of the micro bus.

Once again, we like to take this opportunity to thank all the people and organizations involved in donation of the above project. (Enclosed Photos of bus during various activities).

Thanking you.

Yours faithfully,


Principal
Samthang Vocational Training Institute
Wangduephodrang

Cc: The Managing Director, SPJD, Japan for his kind information and record.

ブータン王国政府
サムタン職業訓練校
於ワンデュポダン

2007年11月29日

SVTTI / ADM-08 / 2007-07/336

日本国大使閣下
ニューデリー、インド

受領書

大使閣下に対し、マイクロバスとそのブータンへの輸送費として17,636.00米ドルをいただき感謝しております。現在マイクロバスは、学生の様々な実習活動や移動などに利用され、学校で有効活用しております。私達はマイクロバスを大切に利用すること、学校の日々の活動のために有意義に利用することをお約束します。

また日本外交協会に対しては、遅れや障害もなく素晴らしいマイクロバスをブータンに寄贈し、輸送していただき、感謝いたします。SPJDとSVTI間で署名した合意書は、問題なく満了します。

最後に、熱海市の方々に対して、マイクロバスを寄贈下さったことに心から感謝いたします。

改めまして、上記のプロジェクトの寄付に関係するすべての方々と組織に感謝する機会とさせていただきます。(様々な活動で利用されているマイクロバスの同封写真)

感謝を込めて

敬具

校長 ブムチュ・ワンディ
サムタン職業訓練校
ワンデュポダン

Cc: 日本外交協会専務理事殿

引渡後写真

本プロジェクトでは、日本から中古マイクロバス1台を、ブータン王国のサムタン職業訓練校へお贈りしました。車両は日本の自治体から無償で提供いただき、その整備・輸送にかかる費用は、日本政府の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」（政府開発援助の一つ）による支援を受け、日本の人々の善意に支えられた国際協力となっています。

マイクロバスは平成19年4月18日に静岡県熱海市より提供を受け、日本外交協会の責任において整備したうえで、横浜より9月10日に出港、インドの港に9月末に荷揚げされた後、ブータンへ陸送されました。10月12日に首都ティンブーにて引渡しセレモニーを行った後、サムタン職業訓練校へ届けられました。

1	<p>引渡し式</p> <p>在インド日本大使館の書記官より車の鍵を贈呈。</p>	
2	<p>引渡し式</p> <p>右から2人目より矢部 哲雄 JICA 所長、坂田久 駐インド日本国大使館 1等書記官、ブムチュ・ワンディ校長、若林誠 JICA シニアボランティア。</p>	

<p>3</p>	<p>引渡し式を終えて</p> <p>左より坂田書記官、矢部所長、プムチュ・ワンディ校長。</p>	
<p>4</p>	<p>修学旅行</p> <p>到着後まもなく、予定されていた修学旅行にも利用されました。</p>	
<p>5</p>	<p>修学旅行</p> <p>2年生が向かう先はインド国境の商業都市等です。</p>	

<p>6</p>	<p>バスに乗り込む学生達</p> <p>学生の実習先へ往復する際もバスを利用します。</p>	
<p>7</p>	<p>バスに乗り込む子供達</p> <p>サムタン職業訓練校の職員の子供達の通学にも利用されます。これから学校に向かいます。</p>	
<p>8</p>	<p>地元新聞社の掲載記事</p> <p>「KUENSEL」の新聞及びホームページに熱海市のマイクロバス寄贈の記事が掲載されました。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>High court upholds verdict on RIM defamation case</p> <p>Register with voia on your v</p> <p>Shizuoka Prefecture donates bus</p> <p>Vicini Timcompong Thimphu landover</p> </div> <div style="width: 48%;">  </div> </div>